

会議等経過報告書

1. 件名	令和2年度第4回大船渡市立図書館協議会
2. 日時	令和3年3月22日（月）午後1時30分～午後3時30分
3. 場所	大船渡市民文化会館（会議室）
4. 出席者	委員：上関みさ会長、今野美彌子委員、藤村敏夫委員、白木澤京子委員 図書館：金野館長、千葉館長補佐、菅野係長、中井司書

会議等の内容（要旨）

1 開会（進行：千葉館長補佐）

委員出席状況の確認。佐々木一義副会長、鈴木博委員の欠席を報告した。

2 会長挨拶（上関会長）

3 館長あいさつ（金野館長）

4 議事

協議第1号 大船渡市子ども読書活動推進計画の改定（案）について （千葉館長補佐説明、金野館長補足説明）

■（白木澤委員）

はじめての会議だったので、よく分からなかったのですが、全体的に見て、家庭、学校あるいは図書館ですごくとても良く取り組んでいるのではないかなというように感じに私は受けました。

いろいろと聞きたいことがあります。まず、図書館のレファレンスについて、この資料の中で触れられていないと思いましたが、その実績は年間どの程度なのかを載せていただけたら良いのではないかなと思ったんですがいかがでしょうか。それは、載せるものなのかどうなのかというところから伺います。

（金野館長）

今、委員おっしゃるとおり、レファレンスの成果をカウントしていくべきだと思っております。

現在、件数については、毎年度1回目の図書館協議会でお示ししていますが、そういったレファレンスの成果の実績については捉える必要はあると認識しております。

また、レファレンスについては、図書館の重要な役割のひとつとして目指しておりますが、今回の子どもの読書推進計画においては、明示するとか、指標を示すこととかというところは、計画から外したところでもあります。

■（白木澤委員）

あとですね、8ページの読書についての子どもの意識の調査の中で、パーセンテージ的には少ないんですけど、読書が「どちらかという大切な」、「大切な」と思っている子どもたちが何パーセントかおりますが、その理由までのアンケートではとってないと思いますが、やはり、その子どもの気持ちとかいろいろなことが関係しているとは思いますが、このアンケートにより、子どもの実際の声を聴かせてもらうことによって、学校なり、図書館なりで対策を取っていくことができるのではないかなと思いましたがいかがでしょうか。

（千葉館長補佐）

今回のアンケートにおいては、その理由とか背景までは聞いておりませんので、単純に項目に丸つけてもらうような形だったので、その結果がこういう数値となっているということです。

（白木澤委員）

そのアンケートの内容については、県内のどこの図書館でもこういう形でのアンケートなんですか。それとも、大船渡独自にこのようなアンケートなのでしょうか。

(千葉館長補佐)

県内のアンケート調査の全て参考にしたわけではなく、県立図書館ではもっと細かくいろいろな項目で聞いているようです。前回の調査もそうでしたが、大きなというか、広い意見というか、あまり細かいところまでは聞かないで、調査項目にしたということです。

県との比較をできるものもあればできないものもあり、あまり細かいところまでは求めなかったということです。

(金野館長)

本当は、委員おっしゃるとおり、詳細までの選択肢により聞けば良かったんですが、県でもアンケートを実施しており、それとの比較ということで、県と似通ったような項目にしたという面もあります。

国の法律に基づき策定する計画ですので、どこの自治体でも独自に行っており、計画自体も指針だけのものもあれば、取組の詳細まで盛り込んだものもあり、各自治体によって様々なようです。

(千葉館長補佐)

アンケート項目自体は、小学校2年生も高校生も同じことにしました。ことばを難しくしたり、ひらがなで書いたりはありませんが、例えば、高校2年生は答えられても、小学校2年生は分からないようなこともあると思いますので、いずれ同じ設問にしたというところがあります。

(上関会長)

背景がわかれば大変いいとは思いますが、自分も何年か前まで学校に勤めており、子どもたちにアンケート実施した経験がありますが、学校としては、と読書が大切ではないと思った人はその理由も書きましようというのは、とくに小学生は大変だと思います。

その背景となるのは、関係者とか、校長先生にお願いして、大切だと思うのはどういうことか個別に聞いてもらうというような方法がいいのかなと思います。

(今野委員)

私は、立根小学校で実際に朝読書に読み聞かせをしているが、年に必ず1度感謝の会というのがあるが、今年度はなかった。

毎回、表彰の中において、1、2年生全員に読み聞かせをしているものですから、1年生、2年生各自が例えばきつねの電話良かったですよというような感想を画用紙に一杯貼ったものをいただいている。

そうした実際の子ども声は、学校でも聞けますし、読み聞かせをしていて、子どもたちが心にとめて、また色んな想像をして身に付けるということで、質問したり、感想を聞いたりしてはしていなかったが、令和2年度は、立根小学校の場合、先生が朝の会が終わってから、感想はありませんかと聞いて、5、6名が立ってそれぞれが、物語の内容まで突っ込んで、感想をお話ししてくれる。

やはり、それぞれの学校での先生の取り組み方にも子どもがもっと本を読みたいという気持ちになっていくのだと思う。実際の声は、実際にやっている私たちが承っている。

(白木澤委員)

21 ページの計画の目標の貸出冊数についてですが、令和7年度の目標が1人 3.7 冊という目標値があるが、年々人口が少なくなる中で、1年ごとにアンケートを取るようであれば、それが目標に対してどういう線を描いていくかというグラフが作れるのではないかと感じた。

これを見た時に、総冊数何冊で、人口が何人かというみたいな感じも部分もあると分りやすいのかなと思った。

そうすれば、貸出冊数が令和元年度まで出ているので、令和2年度は何冊増えてとか、そういうふうな部分の比較の数値も入れてもらえたらいいのではないかと考えた。

(千葉館長補佐)

学校の資料などでは、図書購入金額がいくらで、児童数が何人だから、平均するといくらだよというような内容ですよ。3.7 冊になる基礎の数字があった方がよいということですね。

計画の推進体制のところでも言いましたが、この計画上は、毎年の児童生徒へのアンケート調査は実施してこなかった。

今回からは、毎年の傾向をみて、図書館の利用者数等は簡単に把握できるので、そんなものと合わせて経年の動きを見られるようなものを作りたいと思います。

最終年度はこうなんだけれども、途中の傾向、上り下がりを見ながら、その都度、もし下がった場合はどうしたら良いのか、皆様のご意見をいただきながら、検討していきたいという思いはあります。

(今野委員)

学校の図書館は、例えば文学とか、科学とか、そういった分類を、どこの図書館もそうですが、分類されて陳列されて、子どもが取りやすいようになっているのか、学校の図書室を見たことがないので、わからないが、どのようになっているのか、ということと、それから、今の子どもたちは、どのような本を読んでいるのか、傾向を知りたい。私たちのように読み聞かせをしている者にとっては、知りたいなど思っている。

私たち自分たちの選書によって、読んであげているが、鬼滅の刃とか、非常に子どもも大人も好んで見ているというような傾向があるのですが、どんなものをいっぱい読んでいるのかなど、どのようなものに興味を持っているのかなどということも、読み聞かせとしては、知りたいと思う。

アンケートの内容の中に、あればいいのかなと思います。

(上関会長)

アンケートの中身は今後、検討していただくことにする。昨年度までの学校にいらした藤村委員さん、子どもたちの読書傾向はいかがでしょうか。

(藤村委員)

学校の配架の仕方ですが、0～9までの10分類に分かれており、まず、蔵書数70は9の分類(文学)になっている。その次に多いのが、理科系の4の分類が多い。

今、学校で困っているのが、0という分類(総記)が、自伝とか、そういうものが、有るのですが、20年前とか30年前とかものでシリーズものであり、非常に高価なので買えない。

子どもたちの読書傾向としては、やはり文学が1番、その次に理科系の4の分類、多い順に配架しているような感じである。購入金額もそのとおりです。

学校に必ずパソコンがあって、バーコードが本に貼ってあって、それを読み取りながら、貸出しているので、どの本が人気があってとか、何分類がいっぱい貸出しているとか、学校に行けば、全部パソコンに入っているんで、すぐわかる。それを職員会議とかで、今の子どもたちの読書は少ないとか、図書まっりの時など、いっぱい読んでいるので、表彰しましょうかとか、そのような学校図書館のつくりとか、やり方をしている。

(上関会長)

司書の方から、子どもたちの読書傾向はいかがでしょうか。

(中井司書)

図書館を利用している子どもたちは、9類の読み物も良く読みますが、やはり、自然科学、植物だったり、虫だったり、恐竜だったり、そういう分野もすごく好まれている。

学校図書館をのぞいたときに図鑑類がすごく人気があるが、学校図書館の中でも調べるために貸し出していないので、図書室の中だけで見ているという話をされた。

図書館の方でも、以前は、図鑑については、調べるために必ずあるように禁貸出のシールを張って、貸出禁止にしていたが、徐々に、複本化したりして気軽に持ち帰って、読んでもらえるように心がけている。また、割合としては、迷路とか遊びながら本を楽しむものも人気があり、テレビで紹介され、アニメ化されたものも人気がある。

(菅野係長)

今後の計画として考えているが、児童書の配架について、正面から見て見えるところの本が借りられやすいという側面があるので、場所、配置の入れ替えを行いながら、子どもたちの傾向が変わるのか試してみたい。

(上関会長)

いいことだと思う。よろしく願います。自分も学校に行って読み聞かせをしているが、ある学校の校長先生から、文学的な話も子どもたちはすごく楽しそうに聞いているのだけれども、自然科学の本を組み入れてほしいとの要望があり、それからは、自然科学の本と普通のお話しと代わる代わる読むようにしている。

(上関会長)

それでは、「子どもの読書活動推進に関する計画について」、藤村委員さん、いかがか。

(藤村委員)

第2次の素案の21ページの目標のことですが、今も話されたことだが、中学2年生の読者数の割合が少ないと、それに対してどうするのか、目標はあるが、1番やりたいのは何か、市全体、市の図書館がやりたいことが一体何なのかなど、アンケートが目標じゃないですね。

アンケートを取って現状把握はわかるのだけれども、一体何をするのか。

いらぬものを廃棄しながら、新しいものを入れながらという部分と、それから、回廊の図書配架に

なっているものを、入れ替えながら、やっぱり手に取ってもらうとか、目標値だけではなく、こうすればこれにつながるという書き方をした方がいいのではないか。

目標値の3.7冊はいいのだけれど、これを達成するために、私たちは図書を適正配置しますとか、配架の工夫をしますとかを入れてやった方が目につきやすいのかなと思う。

全部読んでいかないと市民はわからないので、重要なことは目につくところに入れてあげればわかりやすいのではないか。

(上関会長)

藤村委員から意見をいただいたが、自分は、19 ページや 20 ページあたりの取組の重点、これが力を入れていくところなのか、と感じている。

(藤村委員)

重点まで皆さん読むとは思いますが、目標値は数字なので、取組の重点のどこをやればどうなるのかという部分が、ちょっと見えにくいので、ちょっと書いておけば、より分かりやすいのではないか。

(上関会長)

前回の子どもの読書活動推進計画が手元にあったので、それと比較しながら見させていただいた。文章の内容、表現も良くなっており、素晴らしいと感じました。

少しお願いしことがあるが、前回の計画の第1章の計画の位置付けのところの最後に、「市民の皆様にはこの計画に理解と協力を期待するとともに、積極的な参画を願うものです。」という一行がありましたので、今回の計画にもこの一行の趣旨を追加した方がいいのではと考えましたが、ちょっと違うのかなと思いました。

あわせて、16 ページの段落の二つ目です。「環境の整備と充実に取り組みます。」のところに「市民みんなで取り組みます。」というのがあるのとないのとでは違いがあると思うので、検討願いたい。

その他、委員の皆さまから、何かないか。

(白木澤委員)

子どもの読書推進に関わる中で、周囲の環境が大切だと思うが、母親の視点から言いますと、本は大切だと思うのですが、小さい時にどういう風に子どもに本を読み聞かせた方がいいのか。大人自身が読書の進め方を分からないまま、手探りでやっていて、それで、保育園や幼稚園に入れたら、後は先生にお任せしている状態なので、私の年代であれば本が主流であったが、今の20代、30代の若いお母さんたち自身が、本を読まないというか、共働き等で読み聞かせの時間がないという中で、子どもの読書の進め方が私たちの年代に比べて難しくなっているのではないかと想像している。

図書館や「ころりん」さんなんかで、読み聞かせをやっているという情報はあっても、自分もそうだったが、子どもを連れて行った時に騒いだらどうしようとか、1回そのような場面に会ってしまったり連れていけなくなったりというのがあるので、子どもではなく大人の方を指導というか、そちらの方から入っていかないと、もしかして、今の時代のSNSに対抗できないのではないかと。とういうふうに思うが、その辺を皆さまのお知恵をお借りして、今、どういうものなのか、伺いたい。

(今野委員)

市立図書館の「おはなしパレード」で読み聞かせをしているが、やはり、赤ちゃんが騒いだり、泣いたり、そっちこち歩いたりするのだけれども、それなりに対応して、例えば手遊びとか、ゲームとかを取り入れながらやっているの、落ち着いて聞いていただいている。

歩いていても楽しんでいと思いますので、連れてきていただきと思います。大丈夫です。

(上関会長)

大事な視点ですよね。大丈夫です、というのを皆さんにわかっていただく必要がある。

(白木澤委員)

最初の時点で、やはり騒いでしまって、親の方が連れていけなくなるような感じがある。

(藤村委員)

連れていくまでが、やはり垣根が高い。

そのためには、ブックスタートの部分で、保健師さんが橋渡しして、そこが大事である。

(金野館長)

ブックスタートには、図書館職員も一緒にいつている。

(藤村委員)

やはりそこが大事なのでは。

(中井司書)

図書館の職員も一緒に行っている。10年ぐらい前から始めている。大船渡市は県内でも早い時期に取り組んでいる。

ブックスタート事業は、お母さん、子どもさんに接する良い機会だと思っている。
目的として、初めての絵本の紹介と図書館の案内しており、子育てするお母さん方に本の紹介や気兼ねなく、大きい声を上げてもらっても全然かまわないので、参加できることを伝えている。

(金野館長)

重要性を再認識した。これからもっと力を入れていきたい。

7、8カ月健康診断の時に検診の合間で、職員が読み聞かせをし、小さい時からお話に触れる機会が大事であることをお話するので、その時点ですべてのお母さんに1回はお話できる機会を設けているので、その点は充実させていきたい。

藤村先生の言うとおりのハードルは高いかもしれない。

(藤村委員)

保育園でも、小学校でも、中学校でも、やはり、一番にあるのは、液晶、スマホ、テレビから早く離さなければならないと考えているが、中々液晶から紙ベースに戻ってこない。

だから、ブックスタートの時点で、お母さん方におはなしパレードについて色んなPRしてもらい、保健師や図書館が連携しながら、楽しい部分に誘ってもらえばいいのではないかな。

今の親御さんたちは、スマホを横に置いて、これを見ていると、スマホが子守りをしてくれるから、子どもからすれば動くから面白いわけですよ。早く、これから離れないことには本には戻るのは難しいのかなと思っている。

(菅野委員)

図書館の中でもある。子どもが騒ぐと、子どもが楽しくて騒いでいるのを親がしかりつけて、可哀そうだと思うこともある。最終的には、親が子どもを引きずりながら帰っていくという状況が結構あるので、図書館では、静かにしなければならないという前提で皆さん来ているのですが、子どもたちへの寛容さというものは図書館では考えなければならないのではないかな。

(上関会長)

図書館でそのように思っただけなのは、本当にいいことだと思う。

(中井司書)

気が付いた時には、これくらい大丈夫、みんな同じですよ、などと、気兼ねして帰ろうとしている方に声をかけたりしているが、カウンターと児童コーナーが少し離れているので、職員が児童書コーナーに足を運んで対応しようとも考えている。

(白木澤委員)

職員がいてくれると話しやすいし、本のこととかも聞けたりするので、いてくれればすごく安心する。

(上関会長)

今は発信の時代ですので、図書館の取組みや、子どもさんが少々賑やかでも大丈夫ですとか、ブックスタートから始めて、こういう取組をしているので、皆さん、子どもたちと一緒に本を読みましょう、というようなことを広報だけでなく、別の機会に図書館独自に出していくことも良いのではないかな。

(今野委員)

若いお母さん方が読み聞かせをやっていないのではないかな、やれないのではないかなということですが、この間、読み聞かせの私の担当の時に、大高の地域学ということで、地域で発信して、学業だけでなく社会的なことにも取り組むということで、大高生に読み聞かせをやっていただいた。それが生徒さんにとっても、やった喜びと言いますか、たった10分程度でありましたが、司書の指導もあったと思うが、とても上手に歌を入れたり、読み聞かせをしたので、これからお母さんになる高校生を含めて、図書館の方で受け入れていただいた。将来お父さんお母さんになる人たちを育てるという役割を、続けていただければ最高だと思います。

(上関会長)

少しずつですが、件数が少ないが、いろんな手立てを組んでいるので、色々PRしていただきたい。

(金野館長)

皆さんのお考えと同様に、自分たちも、小さい時から、本に触れることがものすごく大事だという認識を持っています。これからも、ブックスタートやおはなしパレードを充実していきたい。

読書ボランティアの力もこれまで以上にお願ひしたいところですし、会長よりお話しのとおり、図書館を中心に市民みんなでというところで、読書推進活動を推進していきたい。

(上関会長)

皆さんからたくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。この辺で締めたいと思うが、なにか皆さんからないかな。

(藤村委員)

計画とは別ではあるが、図書館の様態替えの時に、興味があったりした人をボランティアに入れて、本の棚卸とか、入れ替えに関心を持ってもらって、市民と一緒にやりませんか、手伝ってくださいと、市民を巻き込んでいければ、もっと面白い取り組みができるのではないかと。

司書さんは、一生懸命やっていたら、大変だと思うので、ボランティアを募集しながら、館内の方も整備していけば、面白い取り組みができるのではないかと思います。

(上関会長)

ありがとうございました。以上で、協議を終了します。事務局進行をお返しします。

(千葉館長補佐)

上関会長、大変ありがとうございました。非常に盛沢山のご意見をいただきました。

今後についてですが、本日の協議を踏まえて、修正案を委員の皆様に見ていただいてから成案にしたとは思いますが、どうでしょうか。

(各委員)

お任せします。

(千葉館長補佐)

それでは、最終的には、修正したものを市長の決裁を受けて、確定させる。

その後、教育委員会にも報告をして、承認と言いますか、その上で、確定の確定をうけて、ホームページに掲載したり、各学校に配ったり、関係するところに配って、できるだけ多くの市民の皆様にご協力をいただいて、進めて行きたいと考えております。

5 その他

(千葉館長補佐)

第3回につきまして書面開催とさせていただきます、全て皆様から承認、了解をいただきましたので、決定ということにさせていただきます。

併せて、委員の皆様からいただきましたご意見をまとめて、公表したいと思っております。

簡単に申し上げますと、上関会長からは、指定管理者制度導入については、より良い方向で導入すべき、ということです。それから、市民のニーズに応じたサービス、図書館運営事業、読書推進事業を更に高めること、司書の育成・研修が重要、(質問への回答となるが)指定管理について令和4年度からの導入を考えている。図書館は、2年ないし3年を指定管理し期間が満了したならば、改めて募集をし、違う業者が指定を受ける可能性がある。同じ業者が継続することもあり得る。色々評価をした上で、業者を決定する。指定管理者制度は続くが、業者が変わる可能性はある。

藤村委員さんからは、司書の増員を望むという意見がありました。司書の数が県内の図書館では、1人しかいないのは大船渡市だけである。これについては、指定管理に合わせて、市長まで課題を説明し、認識いただいているところです。指定管理した場合には、市側からコントロールが効くような体制を取ってほしい。業者では毎年、事業の評価をしていただき、改善すべき点は改善して、市からの意見も申し上げる体制としていきたい。図書館のサポーターのような制度があってはどうか、お手伝いが可能であれば、呼びかけていきたい。

白木澤委員さんからは、ICタグ化に対する利用者からの意見を伺ってはどうか。指定管理者制度導入については、メリット、デメリットを検証した上で、大船渡らしさを出していければ良い。司書が確保でき、余裕があった場合には、小中学校への派遣のような形で指導した方が良いのではないかと。ICタグ化の効果の検証をしてほしい。セルフ貸出機の説明パンフレットを作成してはどうか。図書館利用者の声を聞き、要望を反映しながら、利用しやすい図書館にしてほしい。

以上、皆さま方のご意見について、今後の図書館運営に生かしていきたい。

(菅野係長)

IC化の関係を補足するが、現時点でセルフ貸出機は使用可能なので、お時間のある方に説明したい。

(金野館長)

自分たちが目指すのは、市民へのサービス向上です。

図書館には沢山の本があるので、いっぱい利用していただきたい。

今後も委員の皆様からご意見をいただきながら、民間の導入により、人件費を抑えられれば良いので

すが、とりあえず経費削減は置いておいて、市民サービスの向上をめざして、頑張っていきたい。

(上関会長)

大船渡市行政改革実施計画では、指定管理者制度は導入の方向で進んでいるのか。

(金野館長)

導入の方向で進める。大船渡市行政改革実施計画は、3月議会に議決しているので、本計画は決定ということである。指定管理が目的ではなく、市民サービス向上のために指定管理者制度を導入する。今後においても、皆さまからご意見をいただきたい。

7 閉会（午後3時30分）